

## 【研究ノート】

## ピアノの読譜のためのソルフェージュ

——リズム練習と歌を通して——

玉 護 眞理子

Solfege for the Piano Note Reading

—Through Rhythm Practice and Singing—

Mariko TAMAMORI

## I 問題の所在と研究の目的

ピアノ教室の生徒達の多くは教本に掲載されている曲、例えば『ブルグミュラー25の練習曲集』より「バラード」、モーツァルトのソナタなどの楽曲を弾くことに関心がある。そのため楽曲のみの練習を熱心してくる。ところがスケールやリズム、拍子などには興味がない。音を並べているが音価を考えないで練習してくる。フレーズのまとまりで音楽を演奏せず一音一音の音を並べている。アウフタクトが1拍目から始まるように聴き取れる演奏をする。

レッスン中に曲の中に記譜されている音符の名称や拍を楽典の教本を使用してもなかなか身につかない。以上のことが多いために説明を繰り返すことがある。春休み、ゴールデンウィーク、夏休みなどの長期休暇を利用してグループに分けて楽典の確認テストやリズムを打つ練習をしている。しかし、不定期のため進度に問題がある。

そこで月1回、1時間のソルフェージュのグループレッスンを募ることにした。グループで行うことについてヴィゴツキーの高次機能の発達の解説で次のように述べている。

人間に特有な高次の精神活動は、最初、ほかの人々との共同作業のなかで、外的な「精神間 (intersychical) 機能」として現れます。それが、やがて個々人の「精神内 (intrapsychical) 機能」、つまり論理的思考や道徳的判断、意思などの様式へ転化していくということです。(中略) まわりの人間の相互関係から発生します。(中略)

〈発達最近接領域〉の理論は、このようにして、子どもの精神発達における教師の先導的役割の必要とともに、子ども自身の積極的な内面的活動、そして第三に子ども達の集団的・共同的活動の必要性を説く理論であったのです。(柴田2006、pp. 31-32)

以上の事により、個人で理解するよりもグループによってソルフェージュのレッスンを

事より身につくのではないかと考えた。そこで、フランスの国の指導要領を基に作られているフォルマシオン・ミュージカルを中心に、リズムを打ったり、歌の視唱を行ったりして月に1回集まって練習することにした。フォルマシオン・ミュージカルを使用したソルフェージュのグループレッスンを実践する事がピアノ演奏に有効であることを明らかにする。

## II 研究の方法

月に1回1時間のグループレッスンをする。学年は問わず希望者を募集した。他にも日頃から熱心に練習する生徒も誘った。今回の研究対象の生徒は小学2年生1人、4年生5人、である。

使用教本は呉(1994)『リズムとソルフェージュ②』、Labrousse(1993)『FORMASION MUSICALE 1』の2冊を中心として使用する。

『リズムとソルフェージュ②』はこの教本シリーズの途中から使用するが、すでに『ツェルニー30番』や『ブルグミュラー25の練習曲集』を使用している生徒達なので八分音符のリズム譜で掲載されているものを選んだ。これはリズムのフレーズがわかるようにスラーも使用されている。

『FORMASION MUSICALE 1』は初心者が使用する教本である。これはリズムを聴き取る、複数のパートに分かれてリズムを打つ、分かれて歌うことができるようになっている。またフランス語の子どもの歌が歌詞も一緒に掲載されているので言葉とフレーズの結びつきがわかるようになることができるために選んだ。

生徒達は学年が違っている。それに個々の進度にも差があるため、理解力に差がある。しかし、熱心に練習して弾く。当初の共通の教本は『ブルグミュラー25の練習曲集』である。この教本はハ長調で短い曲や変イ長調などフラットが6つ付く曲など難易度に差がある。

何故ソルフェージュが必要なのかを最初にイタリアとフランスのソルフェージュの歴史を調査する。そして現在のフランスで行われている総合的なソルフェージュであるフォルマシオン・ミュージカルの良さを述べる。

## III ソルフェージュの歴史

### 1 読譜に関するイタリアとフランスのソルフェージュの歴史

#### (1) イタリアのソルフェージュの歴史

ソルフェージュ (solfeeggien) という名称は、ソルミゼーションが語源である。水谷(2010)はソルミゼーション (solmisation) は中世の音楽理論書で体系化された「旋律の音程を示すための記憶的手段として、シラブ (syllable) と音高を結び付けて用いる」方法である、と述べている (p. 59)。

イタリアのソルフェッジョは後期バロック時代に教育法として始まった。歌詞を持たないイ

タリアの歌唱練習曲集は16世紀末に現れた。それから17～18世紀にナポリの諸音楽院にて声楽教師達によって確立されたが、個々の生徒のために作曲して与えるため出版されなかった。水谷（2010）がソルフェッジョは「イタリアの歌唱指導教師が生徒の声の敏捷さや装飾技術を高めるために作曲した、歌詞を持たない練習曲のために楽譜にはなっていないものが多かった。」と述べている（p.59）。

## (2) フランスのソルフェージュの歴史

フランスでは、18世紀にイタリアからソルフェッジョが歌唱練習曲として紹介された。それまでのフランスでは音名で読み歌うだけのソルミゼーションが行われていたが、それに比べて、イタリアのソルフェッジョは、音楽的に歌うためのヴォカリーズで歌うことが多い。

母音歌唱による歌の学習システムを初めてフランスに導入した。

また、フランスで発展したソルフェージュが1820年代半ばにイタリアのミラノ音楽院にて使用された。要するに、フランスのソルフェージュ教育が、イタリアのソルフェッジョ教育に還流したことになる。

イタリアのソルフェージュはソルミゼーションが中心になっている。音程はとらないで音名だけ言う徹底した読譜の練習をする。また、メロディを音楽的に歌えるようにヴォカリーズの練習曲集も重要視されている。

## 2 フランスのソルフェージュの歴史とイタリアのソルフェッジョとの関わり

ここではフランスのソルフェージュの歴史とイタリアのソルフェッジョの関わりについて述べる。

フランスでは聴音などの練習があったが、声楽家の練習をするためのものではなかった。それに、フランスでイタリアに匹敵する歌手は育たなかったが『イタリアのソルフェージュ』が出版されてから、声楽の教育が進歩した。また、パリ音楽院の前身である国立器楽朗唱音楽院では、この本をもとに1803年に『音楽院の歌唱メソッド』をパリ音楽院の教師らが編纂している。

のちにフランスでは国王の指示で1784年にイタリアのソルフェージュを取り入れた王立歌唱朗唱学校が開設される。また、それとは別に軍楽隊を養成することが主である国立音楽学校があった。その学校は1789年のフランス革命によって1792年に国民軍の音楽学校に代わり、1793年に国民音楽学校となる。その学校ではソルフェージュの授業が週2回あった。パリ国立高等音楽院の前身である。

パリ国立高等音楽院の設立以降、19世紀の初頭に世界中で音楽学校が設立される。そこで使われたのが、フランスのソルフェージュである。日本では、1887年に東京音楽学校が設立された。東京音楽学校では、声楽、器楽、作曲などの音楽全般の科目を設置した。これにともなって音楽学校の組織、カリキュラムの整備も必要とされていた。

19世紀のフランスでは、イタリアから学んだ従来の歌唱訓練から抜け出しプログラム化さ

れた音楽理論の学習や、聴音、楽典の項目が増え、音楽の基礎教科が発展していった。従来の歌唱訓練の意味であったソルフェージュは総合的な音楽の訓練の意味に変わっていった。

パリ音楽院でも同じように歌唱訓練からプログラム化されたソルフェージュの訓練に変遷していった。

20世紀にはパリ音楽院でのソルフェージュは視唱、聴音、楽典、リズム練習、和声で構成されている。

上記までは、パリ国立高等音楽院での19世紀から20世紀にかけてのソルフェージュ教育を述べた。では、一般のソルフェージュ教育はどのようにされていたのだろうか。

20世紀フランスにおける一般教育、その他の音楽学校や音楽院でも同じように各分野に細分化されたソルフェージュが展開されていた。

器楽演奏とかけ離れたソルフェージュ教育にフランス政府が政令によって1978年5月にフォルマシオン・ミュージカル（総合的な音楽形成科目）に変えた。

### 3 フォルマシオン・ミュージカルについて

週に3回ほど学校が終わってから音楽院でフォルマシオンの授業がある。この音楽院での「フォルマシオン・ミュージカル」の内容は舟橋（2018）「特別なメソッドや方法論があるわけはありません。古今東西の名曲をテキストにして、調音、リズム練習、移調練習、分析、理論、音楽史など音楽作品に多角な面からアプローチし、広い意味での音楽的教養を身に付け、それをレッスンや演奏に反映させていこうという考え方、弁曲の仕方の事を指しています。」と述べている（p. 26）。実作品をソルフェージュの中に取り上げることによって音楽作品の理解と表現を深め、身に付けることを目標としている。

また、第1課程は5歳児から始まり4年、第2課程4年、第3課程3年、専門課程3年で行うカリキュラムがフランス国民教育・青少年省（Ministère de l'Éducation nationale et de la Jeunesse）の決めている指導要領を基礎にして出版されている。これは、飛び級や再履修の場合を除く。

指導要領に従って作られたテキストは現在2000冊ほどになっている。教師が選択できるが、種類が総合的なもの、間違い探しの教本、など様々である。それに加えて、高田（2020）は「ルネッサンスダンス、バロックダンスもレッスンの中で教えることになっている。」と述べている。

## IV 先行研究

筆者が研究する『Cours de FORMASION MUSICALE 1ere ANNEE』について門田（2007）が「フォルマシオン・ミュージカルの1テキストの教育内容について調べた。（中略）ここでは全7巻で組まれているテキストの中の第1巻（課程1年目）について、22の課（レッスン）と3つの復習における教育内容の概要、全ての課と復習における各課題の内容、各課と復習の終わりにある実習とテストの主な問題の内容を、整理しまとめた」と述べている（p. 59）。それは

今回、使用教本の和訳と補足に当たる。しかし、教本の目次が中心で課題1つ1つについては和訳していない。

また、舟橋（2014）は「現在、フランスのフォルマシオン・ミュージカルの考え方が日本にも流布し始めているが、一様でない学生を対象として、自由に教え方を変えたり、質問したりする創意工夫の能力が教員に求められている。（中略）フランスのテキストには各質問についての回答が付けられていない。」（中略）また、子供用の教本の中のムソルグスキーの展覧会の絵について「非常にカラフルでイラストもシャレており、いかにもフランス的な本」と述べている（p. 307）。

筆者が使用する教本も同じく回答がなく、自分で教本に沿って問題を作成することもある。

## V 教本について

『リズムとソルフェージュ2』は前半にリズム、後半に視唱が同じ数だけ掲載されている（図1）。後半には譜読みも時々ある。前半と後半の同じ番号を並行して進めるようになっている譜（図2）。音価は8分音符、4分音符などがあり、スラーが使用されている練習もある。譜読みはハ長調から調号がシャープ、フラット1つまでの付く短調も含まれている。

図1 『リズムとソルフェージュ2』（p. 18）

図2 『リズムとソルフェージュ2』（p. 47）

『FORMASION MUSICALE 1』は4分音符と2分音符を使用したリズムだけの楽譜とそれを利用した1点レ・ミの譜読み、ソルミゼーション、フランス語の子どもの歌う歌詞の付いた楽

譜、ピアノ伴奏が付いたソルミゼーションの楽譜で1課が構成されている。CDが付属してありオーケストラの音楽を聴き問題が作られている課もある。第1巻の中に課が20あり、6巻までである。この教本のフランス語の子供の歌は一般には囃子歌と言われている。筆者が調べたところ、童歌の様なもので韻を踏んでいる。何故、フランス語の歌を使用するかを述べる。ピアノの曲は西洋音楽が多い。この歌を歌うことは外国の音楽を演奏するためには日本語と違う単語の発音のまとまりや、文章によるフレーズ感を体験する事に意義を感じるためである。

教本にはクレ読みといって音の名前を読む練習がある。高田(2020)によるとこのときにフレーズや強弱記号に気をつけて表現しながら行う。図3は重音を下から「ドミ・ドミ・ドレ」と読む。筆者はそれに加えて2人1組で音程をつけて歌わせた。

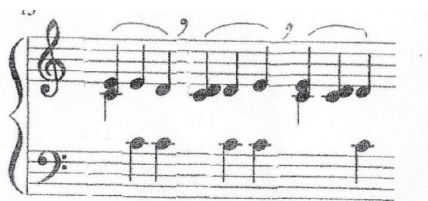


図3 『FORMASION MUSICALE 1』 p.4 (一部加工)

図4は2つのパートを1パート毎にピアノに合わせて全員で歌い、次にアカペラで歌う。その後、パートに分かれて合わせる。初めはパートを打つときに別のパートをピアノで弾いて合わせる。



図4 『FORMASION MUSICALE 1』 p.7

図5では3つのパートに分かれてそれぞれを練習して合わせる事ができる。生徒達には3つのパートの練習を全員で行った後、3パートに分かれて合わせた。それをどのグループでも全部のパートを体験できるようにパートを入れ替える。



図5 「FORMASION MUSICALE 1」 p.8

## VI 生徒の実態

ソルフェージュのグループレッスンの中の小学校2年生1人、4年生5人と6年生に1人ついて考察する。

### 1 A君 (小2)

『ハノン』、『バステイン2 (ピアノ・セオリー)』、『ブルグミュラー25の練習曲集』。

ピアノを弾くことが大好きである。しかし、曲の好みがある。音価通りにピアノを弾くことが時々できない。

### 2 B子 (小4)

『ハノン』スケールフラット3つ (4オクターブ)、『ツェルニー30番』、バッハ『インベンション』、古典派のソナタなどを練習している。

練習をよくしてくるのでインベンションは1週間で譜読みする。教本の楽譜の音符のところに、拍子を1、2、3、4、などとずっと書いてきたが書くことをやめたら拍子がとりにくくなった。

### 3 C子 (小4)

『ハノン』スケールフラット3つ (2オクターブ)、『ツェルニー30番』、バッハ『インベンション』、古典派のソナタなどを練習している。

歌うように弾くことができる。インベンションは2週間ほどかけて譜読みをしてくる。曲中のリズムが時々違う。

### 4 D子 (小4)

『ハノン』スケールシャープ1つ (2オクターブ)、バッハ『インベンション』、古典派のソナタなどを練習している。

小学校4年生の発表会の曲はモーツァルト作曲「トルコ行進曲」を弾くために時間をかけて練習した。日常は塾などの習い事が忙しい。ポリフォニーの曲は苦手である。またリズムを考えずに弾くときがある。

### 5 E子 (小4)

『ハノン』スケールシャープ2つ (2オクターブ)、古典派のソナタなどを練習している。

ソナタの第1楽章は3週間ほどかけて譜読みをしてくる。『ブルグミュラー25の練習曲集』の変イ長調の舟歌は4週間で仕上げた。

## 6 F子(小4)

『ハノン』スケールシャープ・フラット2つ(2オクターブ)、古典派のソナチネなどを練習している。少し難しくなると練習がいやになるため好んで弾く『ブルグミュラー25の練習曲集』の中の簡単な曲も時々練習する。

## VII グループレッスンの実施

### 1 第1回

『リズムとソルフェージュ②』

「リズム」1、2を練習した。1のリズムをたたく前に4分の3拍子の場合、1小節の中に1、2、3がどこに当たるのかを考えてから実施した。ここでは楽譜に書き込まなくて自分で見てわかるように指導した。

「ふよみとソルフェージュ」発声練習から始めたが、腹式呼吸ができていない生徒はほとんどいなかった。音程が正確に歌えない生徒もいた。

『FORMASION MUSICALE 1』1点レ・ミのみ使用して歌う練習が3つある。1つの練習は2パートに分かれているので他方の音を聴いていないと自分のパートが入れない。

聞き取ったリズムの順を書く練習、フランス語の子どもの歌を歌う練習なども行った。

生徒達はリズムを記憶して聞こえたりリズムを書くことや、集団で順番にリズムを打つことなど初めての経験で予定より練習が進まなかった。フランス語の歌は発音に時間がかかったため、次回も練習することにした。

### 2 第2回

『リズムとソルフェージュ②』

「リズム」3、4、5の練習をした。3のリズムは両手奏になっている。そのため上のリズムと下のリズムをそれぞれ練習した後に2グループに分かれて上下のリズムを打った。その後上下を交代した。最後に一人で両手奏を上下と左右の交代をして練習した。

「ふよみとソルフェージュ」3、4、5の練習予定が拍子を振りながらはできなかったので拍子を振る練習をした。そのため宿題にした。初めはピアノに合わせて弾きながら歌い、徐々にピアノの音を減らして練習するように指示した。最終的にピアノは始めの音を弾くだけでアカペラで歌えるまで練習するように伝えた。

『FORMASION MUSICALE 1』前回の続きでフランス語の歌を歌った。後にソルミゼーションしながらリズムを打つ練習を行った。これは3つの課題があり、2つは歌とリズムが1段ずつになっているので2グループに分かれて練習した。3つめの課題はソルミゼーションが1段、リズムが2段に分かれているので3グループに分かれて練習した。いずれも最初はみんなでそれぞれのパートを練習してからすべてのパートを組み合わせることができるようにして最終的には1人で練習した。



間違い探しは課題のリズムを少し変化させて聴き取り、どこが違うのか個人個人で考えた。

ピアノの伴奏に合わせて1点レ・ミのみの曲をソルミゼーションして歌った。その曲で問題が作られていて、ミの数を数えたり記譜を移したりした。ここで1課程が終了した。

### 3 第3回

『リズムとソルフェージュ②』

「リズム」6、7、8の練習が宿題になっていた。リズム打ちは4分の2拍子の場合には1、2、1、2…と言いながら練習した。他のリズムも同様にリズム打ちした。練習があまりしていなかったために時間がかかった。

「ふよみとソルフェージュ」「リズム」と同じく6、7、8を宿題にしたが練習していた生徒はいなかった。腹式呼吸は前回と同じくできない。音程もしっかり歌えたのは1人だった。ピアノのレッスンの時にできていないところを確認することにした。

『FORMASION MUSICALE 1』Lecon1最後の課題であるソルミゼーションでピアノの伴奏がある曲は2声に分かれていても歌えたがlecon2のアカペラで2声に分かれているものは下声部の音程が取れなくて仕上げられなかった。ピアノが補助すると歌えたので次回にもう1度練習することにした。

### 4 第4回

『リズムとソルフェージュ②』

「リズム」9、10を宿題にしていた。リズムが1つずつの区切りになったので拍子感がでてまとまりが聞こえるように指導した。歌いながら指揮をする練習をしたが指揮ができなかった。

「ふよみとソルフェージュ」9、10を宿題にしたが練習していなかった。何故ピアノを弾くために必要なのか理解していない生徒が多い。

『FORMASION MUSICALE 1』前回のアカペラの2声の曲(図3)を練習した。下のパートはピアノと合わせても歌うことができなかったため宿題にした。

他には四分音符と二分音符のリズムを聴いて間違ったところを指摘した。最後に新しいフランス語の歌を歌った。

### 5 第5回

『リズムとソルフェージュ②』

「リズム」11~15

「ふよみとソルフェージュ」11、12、13

宿題を行っていた生徒はどちらもすぐにできた。

『FORMASION MUSICALE 1』譜例3の宿題を確認した。1ヶ月後のグループレッスンでも同じように練習したがやはり下のパートは歌えなかった。譜例4の練習も行ったができなかった。譜例5はできた。

歌を階名で歌った。腹式呼吸を鏡の前で練習したらみんなができるようになった。

## 6 第6回

新型コロナウイルスのため岐阜県に非常事態宣言が発令された。そのため、グループ LINE にて30分行った。

『リズムとソルフェージュ②』

「リズム」16～19

「ふよみとソルフェージュ」12、13

の練習を行った。一斉にリズムを打ってもそろわない。1人のリズムが遅れるとテンポが順番に遅くなった。個人個人で確認する方法が良かった。

## 7 第7回

第6回と同じく Zoom で30分間『リズムとソルフェージュ②』の練習を行った。

「リズム」17～20

「ふよみとソルフェージュ」19～22

『FORMASION MUSICALE 1』p. 7、8

個別に行っている時に確認して個人で確かめてリズムを打ち、メロディーを歌った。歌の音程が正確に歌える生徒があまりいない。そのため、

- 1、ピアノで弾きながら歌う
- 2、最初の音を弾いた後、時々ピアノの音を弾いて正しい音程で歌えるか確かめながら歌う
- 3、ピアノを弾かずに歌う

という順番に録音して保護者のグループ LINE に送信した。

この間にオンラインレッスン成果発表会を開催する。

## 8 第8回

『リズムとソルフェージュ②』

「リズム」21～25

「ふよみとソルフェージュ」24、25

『FORMASION MUSICALE 1』p. 8

今回も zoom で30分間行った。歌は個々で確認した。

## 9 第9回

『リズムとソルフェージュ②』

「リズム」26、27、

「ふよみとソルフェージュ」24、25

『FORMASION MUSICALE 1』p. 7やり直し

2声に分かれて歌う。タイムラグのため合わせるができない。しかし、リズムが初めから打つように宿題で練習してきた。

## 10 第10回

『リズムとソルフェージュ②』

「リズム」28

「ふよみとソルフェージュ」26～29

『FORMASION MUSICALE 1』p. 8リズムを覚えて書く。フランス語の歌（発表会で歌う予定）Zoomのため事前にYouTubeで楽譜を示して歌い録画した。グループLINEに投稿した。

## 11 第11回

『リズムとソルフェージュ②』

「リズム」29、30

「ふよみとソルフェージュ」30

『FORMASION MUSICALE 1』p. 8リズムを覚えて書く。今回から1時間の対面レッスンを行った。フランス語の歌（発表会で歌う予定）

全員が『リズムとソルフェージュ②』の課題がすぐにできるようになった。フォルマシオン・ミュージカルも時間をかけないで課題が解けるようになった。歌はマスクをしてソーシャルディスタンスに気をつけて練習した。腹式呼吸と喉を開けるので頭声発声がかうまくいっていた。

## VIII 結果

このグループレッスンを実践してわかったことは次のことである。

- ・学年や進度に違いがあるが『FORMASION MUSICALE 1』は初歩のソルフェージュを順序だててわかりやすく進めるように編集されている。
- ・個人レッスンの時に譜読みの時からリズムを考えて弾くようになった。
- ・クレ読みやソルミゼーションにより音名が言えるようになり、宿題の楽譜を正しい音で弾けるようになった。
- ・歌の練習をして正しい音程で歌えるようになった。そのため、ピアノの演奏でも歌えるようになった。
- ・楽譜を見ながら拍子（例えば1、2、3、4）と言いながら両手奏ができるようになった。個人の成果は本文末尾の表1に掲載した。

## IX まとめ

2019年11月からグループレッスンを始めた。初めはソルミゼーションの意義、宿題を自宅

でこなすことができない生徒もいた。しかしレッスン回数を重ねていくと周りの影響があり宿題をこなせるようになった。そのためレッスンの時間内に合わせる練習が捗るようになった。グループレッスンは1人ができないと先に進めにくいができる生徒が率先してできない生徒にお手本を示したり、教えたりする事で学習が進んだ。

2020年3月から新型コロナ型ウイルスのために初めは休むことがあったがグループLINEのビデオ通話、zoomによるオンラインにて30分レッスンの継続ができた。この頃は生徒達がみんなよく練習をしていた。特にzoomでは楽譜の表示やパソコンによる音響調節ができるためわかりやすいレッスンができた。これは筆者が2020年の音楽教育学会第51回大会オンライン大会で口頭発表をした。これが学びを継続できた1つの良い方法であったであろう。

このグループの生徒達の成果は2020年12月6日岐阜県にあるふれあい会館サラマンカホールでの発表会でも明らかである。フランス語の子どもの歌など原語で歌う際の発声がよくホールに聞こえる声で歌った。それはピアノ演奏にも関わってくると思う。レッスンに通う生徒達にピアノを弾くときに歌わせること、拍子を理解して弾くことなどグループ以外の生徒達もよく練習しているので今後のレッスンに取り入れていけるような工夫が必要かと思われる。今後の課題はグループ内の生徒達は学年が上がるために勉強が中心になり継続できるか、グループに参加しない生徒達にはどのようにレッスンを進めていくかということである。

表1 グループレッスンを始めてから1年1ヶ月間の比較

|       | A君                              | B子                          | C子                                   | D子                                 | E子                                 | F子                                   |
|-------|---------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|
| 発表会   | ブルグミュラー<br>25の練習曲集<br>無邪気<br>前進 | バッハ<br>2声第8番<br>グカン<br>かっこう | バッハ<br>2声第13番<br>ベートーヴェン<br>バガテルより   | モーツァルト<br>トルコ行進曲                   | ベートーヴェン<br>ロンド<br>ト長調              | クレメンティ<br>ソナチネ<br>Op. 36-3<br>第1/3楽章 |
| 第3回   | 間違った所がわかるようになった                 | 譜読みが速くなった                   | 音を読む練習<br>苦手な6/8ができた                 | リズムが苦手わかるようになった                    | 付点四分音符と八分音符がわかった                   | 何拍子かを数えたたける                          |
| 成果発表会 | ブルグミュラー<br>25の練習曲集<br>ステイリアの女   | バッハ<br>2声第15番               | バッハ<br>2声第2番                         | モーツァルト<br>ソナタ K.545<br>第1楽章抜粋      | ベートーヴェン<br>ソナタ Op. 49-2.<br>第1楽章抜粋 | ショパン<br>ワルツ<br>イ短調遺作                 |
| 発表会   | ソナチネ<br>Op. 55-2                | ショパン<br>幻想即興曲               | ベートーヴェン<br>ソナタ第1番<br>Op. 2-1<br>第1楽章 | ショパン<br>小犬のワルツ<br>バダジェフスカ<br>乙女の祈り | ショパン<br>前奏曲より<br>雨だれ<br>7イ長調       | ショパン<br>ワルツ<br>イ短調遺作<br>ポロネーズ<br>ニ短  |
| 成果    | 調性感がある<br>拍子を言いながら弾く            | 音価の違いがわかり宿題をこなす             | 拍子に合わせて正確なリズムで弾ける                    | アルペジオが拍の中で取まるので拍感がある               | ピアノで歌う事ができた                        | 拍子に合わせて正確なリズムで弾ける                    |
| 課題    | 数えて弾く                           | ピアノで歌う                      | 和音を読む                                | 速く読譜をする                            | 速く読譜をする                            | 速く読譜をする                              |

## 文献

- 呉暁 (1994) 『リズムとソルフェージュ②7～9歳向け』音楽之友社  
 柴田義松 (2006) 『ヴィゴツキー入門』子どもの未来社  
 高田美佐子 (2020) フォルマシオン・ミュージカル関西研究会主催講座

- テシュネ, ローラン (2004) 「ソルフェージュ: 明日のための教育法 (1) — 19世紀フランスのソルフェージュ」 東京芸術大学音楽部紀要 第30集 pp. 42-54
- 舟橋三十子 (2014) 「新しいソルフェージュ〜フォルマシオン・ミュージカルへの展望」 名古屋芸術大学研究紀要 第35巻
- 舟橋三十子 (2018) ムジカノーヴァ2018・2
- 水谷彰良 (2010) 『『イタリアのソルフェージュ』初版 (パリ1772年) と初期の異版』 『音楽研究: 大学院研究年報22』 国立音楽大学 pp. 59-74
- 門田幸久 (2007) 「フォルマシオン・ミュージカルの1 テキスト内容研究」 尚美学園大学芸術情報学部紀要 第12号
- Labrousse, Marguerite (1993) *FORMASION MUSICALE 1ere ANNEE*, Editions Henry Lemoine

(受理日 2021年9月14日)